



# JEG ニュースレター 183号

www.jegschweiz.com

2022年6月30日

## 小さな証

戸惑うことばかりのスイスでの生活のなかで若き主婦は神様の視点に気付かされ、神の家族の交わりの中で癒され育まれていく。P2



## アンドレアス兄結婚

日本での宣教に命を燃やした故ゲルスタ牧師の長男アンドレアス君が任地で会った米国人カティアさんとスイスで結婚されました。P3



## また会う日まで

元ロンドンJCF盛永進牧師は故国日本で正子夫人に看取られながら6月11日にイエス様の御許に帰られました。

P7-P9



## ヤドバシム・ツアー

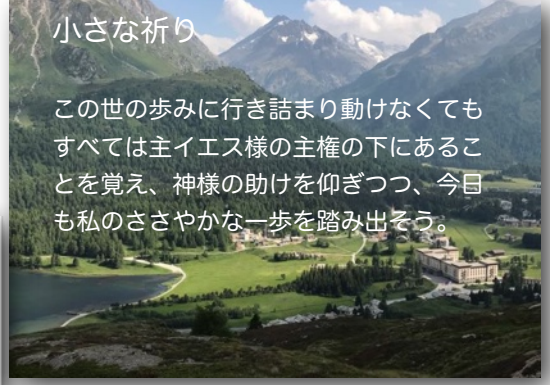
エルサレム・ホロコースト記念館ヤドバシム・バーチャルツアーへの参加者の心に迫ったものは、。

P10-P12



## 小さな祈り

この世の歩みに行き詰まり動けなくてもすべては主イエス様の主権の下にあることを覚え、神様の助けを仰ぎつつ、今日も私のささやかな一歩を踏み出そう。



キリストは私たちのために、ご自分のいのちを捨ててくださいました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから、私たちも兄弟のために、いのちを捨てるべきです。 1ヨハネ 3：16

南アフリカ：クルーガー国立公園にむかう途中に広がるアフリカの大地と大空



戦争、パンデミック、インフレ、自然災害、人間は乱気流に巻き込まれた飛行機の中にいる乗客のように無力で弱い存在のようです。しかし、人には最高のパイロットであるイエス・キリストが与えられています。この最高のパイロットに完全に自らを委ねる時、安心と人生の確信が得られます。

## 小さな証

## 神様の視点で見た時

松尾めぐみ

日本キリスト同盟教団防府聖書教会



スイスでの一年を通しての恵みを証させていただきます。

一昨年の年末に職場にいる夫から「すごいことが起こった。帰ったら報告する」とメールがありました。「私は何が起こったのだろう。コロナになったのかな。何か病気が見つかったのかな。」ととても心配になったことを覚えています。

帰ってきた夫から報告されたことは、スイスで短期の研修をしないかと上司に言われたという内容でした。下の息子はまだ1歳だし、コロナのことも心配だし、海外生活もしたことないし、と不安な気持ちが私の心を占めました。

また私の母が一昨年亡くなったことが一番大きく、そのショックがまだまだある中、環境の変化についていけるのか、また母が亡くなるという人生最大の試練と思える問題を、なぜこのような時期に神様は起こしたのだろうと理解できませんでした。しかし、夫の仕事の都合もあり、じっくり考える時間も無く、夫だけの単身も考えましたが、家族で行こうと夫婦で話し合い、3月末スイスへ向かいました。

スイスでの生活が始まり、まず困惑したのが買い物でした。商品の説明がドイツ語、フランス語、イタリア語で書かれており、中身に何が入っているのか分からず、ヘアコンディショナーとボディークリームを間違えて買ったり、生卵だと思って買ったらゆで卵だったり・・・(カラフルだなと思ったら!?)最初は携帯の翻訳機能が欠かせませんでした。生活が変わり、住んでいる環境が変わり、最初は戸惑うことばかりでしたが、スイスに来る前に不安を抱いていたことは、周りの方々に支えられ、徐々に慣れることができました。

しかし、母のことはどこにいても何をしていても思い出し、涙し、まだまだ時間が必要だなと思っていました。そのような中で、神様は私に多くのことを語ってくださいました。ある日、ディボーションの中で与えられたみことばが心に留まりました。『ですから私たちは落胆しません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。私たちの一時の軽い苦難は、それとは比べものにならないほど重い永遠の栄光を、

私たちにもたらすのです。私たちは見えるものではなく、見えないものに目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に続くからです。』IIコリント4：16-18

迫害を受けて目に見える現状は酷く、人間にはどうすることもできない事も、神様を信頼し、みことばを握りしめ歩む時に現状は変わらないかもしれないけど、私たちの内面は変わることができることを教えられました。神様はこの地上での歩みは一時的であり、永遠に続くと言われていました。

私は時に、今生きている地上の歩みだけに思えて、今ある試練も自分には重く負いきれません!と言いたくなることがあります。しかし神様の視点で見る時に、永遠に支配しておられる神様がおられて、そのお方が私に恵みを与えて下さると約束して下さっています。今ある試練の時も神様が共におられ、乗り越えられると感じた時、悲しみの涙ではなく安堵の涙が出てきました。この人生の中で最も衝撃的と思える試練にあった時、この人生が地上だけだとしたら到底受けとめられないことだと思います。



私はこの最も価値あるものに信頼していきたいです。いま目の前にある悲しみ苦しみも全くなかった訳ではありません。しかし目の前しか見ることができなかつた私ですが、神様の視点で見た時にこのことも神様のご計画の内に起こっていることなのだと受けとめることができました。このように神様のみこころだと受けとめることができたのは、スイスで過ごす中で心がほぐれてきたからだと思います。

それはJEGの皆さんとのお交わりが大きかったです。教会でいつも話しかけて下さったり、お家に呼んで下さったり、zoomでの”ひめっこ”(小さい子供を育てているお母さんの集まり)に参加させていただく中で、神の家族のあたたかいお交わりに癒されていきました。この一年神様から語られたこと、また皆さんとのお交わりは人生の宝物です。

帰国して神様が私たち家族をどのように導いておられるのか日々尋ねながら歩んでいきたいです。皆さんのお祈りに感謝です。また日本に帰国、旅行の際はぜひお立ち寄りください!ありがとうございました!



1、スイスJEG修養会が催行

今年のスイスJEG修養会は”力ある信仰生活とは”(エペソ6:10-20)をテーマに、6月10日より12日まで、チューリッヒ州ヴィンタートゥア近郊のZentrum Rämis Mühleで開催されました。例年より少なめの25名(部分参加を含め)の参加があり、月2回の礼拝で交わりの機会に不足がちな兄弟姉妹が緑豊かな美しい自然環境のもと、み言葉を学び、ゆったりとした余裕あるプログラムで交わりを密にする幸いを得ました。土曜日午後にはほぼ全員が参加して付近の丘陵地帯をハイキングし、アルプスのパノラマを楽しむ事ができました。



その様子は動画でもご覧いただけます。 [Girenbad-Schauenbergへピクニック](https://www.youtube.com/watch?v=-hekugZU0Js)

スライドショー

<https://www.youtube.com/watch?v=-hekugZU0Js>  
ビデオ

<https://www.youtube.com/watch?v=-hekugZU0Js>

今回の修養会は、世話人会により企画編成され、講演予定のテーマについて、あらかじめスモールグループによる学びを行い、理解を深めました。この修養会の初めから終わりまで、主が共に居て祝福くださったことに感謝します。

2、ウクライナから船越真人宣教師がスイスJEGに

6月26日(日)は兵庫県加古川市の加古川バプテスト教会から派遣され、1998年からウクライナ南部の港湾都市オデッサで、ご家族とともに宣教と教会開拓伝道に携わっておられる船越真人宣教師ご夫妻をスイスJEGにお迎えしました。



戦争勃発後の現在、オデッサの教会員の避難先確保と支援にあたっておられる船越宣教師に、現況報告をお話し頂くと共に、ペテロの湖上歩行をテーマにメッセージのご奉仕をしていただきました。

今回のロシアによる軍事侵攻により、船越宣教師ご家族は教会員たちとともに一時的にウクライナ西部の町ベリカ・ピーガンに移り、避難生活を送ると同時に、ベリカ・ピーガンを拠点として、国外に避難したオデッサの教会員たちを訪問し、また国外におけるウクライナ難民の受け入れ状況を見聞し、ルーマニアの川井宣教師ご夫妻やウクライナ内の関係教会と連携しつつ、戦争後のウクライナの兄弟の生活の回復のために何をすべきか、何が出来るかを祈りつつ、欧州の日本語教会にも積極的に訪問されています。

戦争後のウクライナの兄弟の生活の回復のために何をすべきか、何が出来るかを祈りつつ、欧州の日本語教会にも積極的に訪問されています。



スイスJEG修養会スナップ

ます。

日本CGNTVにおける船越真人宣教師の現地レポート(5分44秒)  
<https://www.youtube.com/watch?v=KYCrQ7PGwq4>

3、アンドレアス・ゲルスタ兄がご結婚

4月30日、ゲルスタ・ハンスウェリ前牧師の長男アンドレアス兄と米国人カティア姉がKirchNewwiesで結婚式を挙げられました。自転車事故で負傷された母親のウェンディ宣教師がリハビリセンターから帰られたのち、二人して母親のお世話をされていましたが、6月6日、福音を伝えるためアラビア半島の任地に帰られました。新しい生活の始まりにあたって主の導きと助けがありますようにお祈りします。



4、ミュンヘンで井野 葉由美牧師の就任式



2009年から在欧日本人宣教会から派遣され、13年の長きにわたってミュンヘンの地において宣教ならびに牧会の働きをされてきた安藤藤之牧師、里佳子宣教師が昨年本帰国された後を継ぎ、北ドイツから井野 葉由美牧師がミュンヘン日本

語キリスト教会の後任牧師として招聘されました。

5月29日にはフランクフルト日本語福音教会の矢吹博牧師の司式で、牧師就任式が行われました。この夏には5家族が本帰国されるミュンヘン日本語教会ですが、新しく牧師を迎え、大きく羽ばたく新時代をお祈りしています。

5、盛永進元ロンドンJCF牧師が召されました。

6月11日午前0時51分ごろに盛永進元ロンドンJCF牧師が天の故郷に帰られました。1974年、ロンドンで初めて創立された日本語教会であるロンドンJCFを長きに渡って牧会され、2010年に引退されるまで、実に多くの邦人を救いに導かれました。

引退後しばらくしてから、茨城県神栖に居を移され、地元で引退牧師として宣教されていました。とても繊細な神経を持ちながらも、あのほとばしる情熱と愛を込めた盛永先生のメッセージは多くの邦人キリスト者を魅了し、多くの勇気と励ましを与えてきました。

正子夫人も2月にはロンドンから帰国され最後を看取られましたことも幸いでした。地上での多くのお働きを終え、愛してやまなかったイエスさまの身許で憩われている盛永先生の姿を想像しています。

6、世界各地からホットな情報が満載の月報/ニュースレター&メルマガが届いています!

工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ、吉村美穂NL、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井勝太郎宣教師の週報、イザール通信、森ゆり空レタ配達人、”宣教の声”が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。なお、スイスJEG会員の兄弟は、HPでパスワードを入れ、いつでも閲覧可能です。

# 日出づる国から

神様の御業を感じました。

津田和明

東京フリー・メソジスト小金井教会 伝道師



いつもお祈りに覚えてくださってありがとうございます。3月に東京聖書学院を無事卒業し、4月から東京フリー・メソジスト小金井教会で伝道師としての働きがスタートいたしました。

元々この教会は、滝井裕希恵姉から紹介していただいた教会で、世界宣教に重荷を持っており、宣教師や牧師を海外に送り出している教会です。ヨーロッパの日本語教会の牧師たちをサポートしている教会でもあります。

また、私の元々の母教会である、日本キリスト教団洲本教会は、元は日本で2番目に建て上げられたフリー・メソジストの教会です。小金井教会、東京フリー・メソジスト教団ができるきっかけになった、エヴァ・B・ミリカン宣教師は、元々この洲本教会で夫のロイ・ミリカン宣教師と牧会されていました。戦争前にアメリカに帰国され、ロイ先生が亡くなられた後も、ミリカン先生は日本人たちのことを心配して、60歳を超えて、家を売り払って、戦後の焼け野原の東京に来られ、先生の存在がきっかけでこの教会ができました。

不思議と自分のルーツである洲本で牧会されていた先生に由来する教会であり、しかもヨーロッパ宣教をサポートしているこの教会に、何も知らずに導かれたことに、神様

の御業を感じました。東京聖書学院は中野雄一郎先生出身校でもあります。神学の学びだけでなく、人格的にも整えられることに力を入れている神学校です。4人の同期生に恵まれて、共に支え合い、励まし合いながら、卒業することができました。

2年目からはコロナ禍となり、授業もオンラインとなり、公園での子ども伝道実習や、賛美クワイヤの授業はできなくなりました。そんな中でも皆様をはじめ、たくさんの方々の祈りと励ましに支えられて、なんとか卒業することができました。学びにおいては、さまざまな分野に特化した先生方から、さまざまな視点から物事を捉え、考えることを学びました。

現在小金井教会では、キッズ(0歳から小学校6年生)の働きを中心に仕えております。また、青年たちのフォローや、教団の青年委員会、ティーンのための働き、子ども委員会の働きにも関わっています。まだ伝道師として覚えていかなければならない働きが多いのですが、将来的には賛美伝道もやっていきたいと考えております。

最近外国人の方が多く教会に来るようになりました(英語で同時通訳の奉仕者が与えられており、感謝です)。東京に来られる際は、ぜひ遊びに来てくださればと思います。欠けの多い者ですから、これからも伝道師としての働きが守られ、用いられますようにお祈りいただけますと感謝です。欧州日本語教会の働きが、主の愛を表す豊かな器としてますます用いられていきますように。



アルプスの花

## YouTubeチャンネルの紹介

安藤里佳子

同盟基督教団いわきキリスト教会



コロナ禍が始まった頃、家に籠って何か有意義なことができないかと、動画配信を考えました。以前紹介させて頂いた子育てに関する動画は限定公開でしたので、この春には「ピアノ宣教師社長」という公開動画を配信することを始めました。

私は動画を上手に編集したりすることはできませんが、SNSの世界はまだまだ可能性を秘めていると思っています。Facebookではクリスチャンも気軽に教会や信仰について投

稿していて、この気軽さでYouTube配信もできたらいいのではないかと考えたのです。

教会の建物にとどまらず、信仰者の発信がますます重要になってきているこの時代において、YouTubeでは今の所宗教に対する規制などはなく、大きなチャンスではないかと思えます。

「ピアノ宣教師社長」チャンネルは大変拙い動画ではありますが、未信者の方々が少しでも興味を持ったり、教会への敷居が低くなってくれたらと願って配信しています。なぜ社長なのかは、どうぞ一度チャンネルを訪れて視聴してみてください。[ピアノ宣教師社長 - YouTube](#)

顔出しで公開することは勇気がいりますが、沢山のクリスチャンが発信できたら、互いの励まし合いにもなりますし、一般の方々が聖書や信仰について触れる機会も増えると思います。聖書の立派なお話をする必要はなく、自分の信じていることを自分の言葉で伝えられたらいいと思います。多くの困難に囲まれている時代だからこそ、少しでも突破口を見つけていきたいです。



from Adelaide, Australia

## ホームスクールを始めました

菊地祥彦

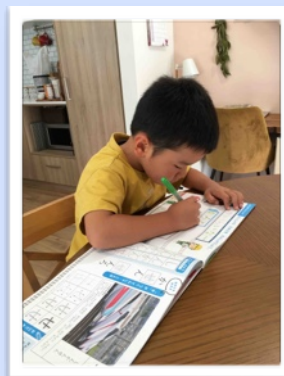
オーストラリア・アデレード在住



南オーストラリア・アデレードに来て、6年が経ちました。ここで生まれた息子の眞理（しんり）も、もう5歳半です。

オーストラリアでは、小学校に上がる年齢です（日本よりも一年早い）。私たち夫婦は、結婚当初から「子どもが生まれたらホームスクーリングをしよう」と考えていました。そして、その思いは年々強まり、自然とホームスクーリングをするようになりました。

最近、ホームスクーリングの良い点の一つは、「時間の使い方」だと実感しています。朝も夕方も急ぐ必要がない。時間を自由に使えるため、大切なことを大切にできる。



我が家では、毎日、朝食前にファミリーディボーションをしています。短い聖書のお話をし、暗誦聖句を言って、お祈りをします。ある朝、息子は「僕、お昼ご飯の時も夕飯の時もこれやりたい」と言いました。聖書の価値・素晴らしさを息子に教えたい私たちにはその言葉がとても嬉しく、もちろんできない時もありますが、なるべくご飯の度に、ファミリーディボーション

を行うようにしています。

これも急ぐ必要がないためできることです。クリスチャンで哲学者であるダラス・ウィラードは「クリスチャンは急ぐことを断固として生活から排除しなければならない」と言いましたが、時間の使い方は、自分自身だけではなく、子供など周りの人たちにも影響力を持っていると思います。

あたふたしたり、急いでしまうこともあります。神様に与えられた時間を、神様が喜ぶように、また、周りの人々を愛するために、大切に使いたいものです。





## 欧州の日本語集会から

### 主の導きに従って

川上寧 (やすし)

Japanese Christ's Disciples



ヨーロッパの日本語教会・集会の主にある兄弟姉妹の皆さま、ご無沙汰しております。昨年の9月末までベルギーのブリュッセル日本語教会にて、妻の真咲牧師と共にご奉仕をさせていただきました川上寧です。

日本語教会を辞任する1ヵ月前にはビザの失効により、日本への一時帰国を余儀なくされましたが、神さまがベルギーでの邦人伝道のために私たちを召され続けていると信じ、日本にてベルギーで開拓伝道を始めるための準備をしまりました。準備に時間はかかりましたが、主が助け導いてくださり、再びベルギーに戻る道を開いてくださいました。ベルギーの所属宣教団体VIANOVAのバックアップのもと無事にビザも再発給され、今年の3月初旬に約半年ぶりにベルギーに戻ってまいりました。お祈りに覚え続けてくださり感謝いたします。



VIANOVAはベルギーに、そして世界中にキリストの弟子を広げるために活動している宣教団体です。その宣教団体と共に、特にベルギー在留(在住)の邦人に対して宣教していく私たちは、私たちの新しい歩みを「Japanese Christ's Disciples(日本人のキリストの弟子たち)」という名称で活動を始めています。どうぞ、今後とも主にあつてよろしくお祈りいたします。

私たちがベルギーに戻った当初、ウクライナから来るトラックに救援物資を集めて送る支援活動をVIANOVAが始めたばかりで、その活動を一緒に行うことができました。5月初旬にも2台目のトラックが到着しましたが、一度目よりも更に多くの救援物資が宣教団体の内外から献品されたことは驚きでした。一度目より物資が集まらないのではという不信仰な予想は覆され、悔い改めと感謝の思いと共に、主の御業をほめたたえました。

邦人宣教への道も、主は不思議な形で備えてくださっていました。現時点では、具体的な集会を持っていない私たちは、在留邦人にまず出会い、私たちの存在を知っていただくところから始める必要があります。そのために、どのようなキッカケ作りができるだろうかと考えていたところ、ドイツに住む友人家族より素敵なお申し出をいただきました。そのご家族には3人のお子さんがいらっしゃるの、もう着なくなった子供服や、使わなくなった玩具、学習用具、家具等が多数あるとのこと。それらの物を全て私たちの活動のために献品するので、それを用いて日本人向けのバザーを開いたらどうかというご提案でした。子どもがいない私たちには全く無い発想でしたが、主が友人家族の提案を通して、邦人宣教への備えを用意くださっていることを知りました。

主の導きと備えはそれだけにとどまりません。妻の真咲宣教師が卒業した神学校で、以前に教鞭をとられていたこともあるアメリカ人宣教師のご夫妻が現在ベルギーに在住され、ベルギーの神学校でも教鞭をとられていることを風の便りに聞き、お会いすることができました。そして分かったのは、私たちの自宅からもそう遠くない、日本人の多く住む日本人学校の周辺で邦人向けのトラクトを配り続けられているということ。また「一緒に伝道してくれる日本人の夫妻をお送りください」と何年も祈られてきたということです。私たちを見て「やっと祈りが聞かれた」と仰る先生の言葉を聞きながら、ベルギーでの邦人宣教に対する主の思いを改めて知りました。

今後については、上記のバザーを開催しつつ、自宅を開放してできる活動等についても祈り求めています。宣教のために必要なものは全て主が備えてくださると信じていますから、主の備えと導きにしっかりと従いながら、キリストの弟子の群れがベルギーに、そしてこの地に広がっていく働きのために祈りつつ歩んでまいります。どうぞお祈りください。

三連日! 主にお子さま向けの物を扱うフリーマーケットです

### ミニフリーマーケット

6月1日(水) オアシスの日  
子供服・靴など

6月15日(水) 赤い糸の日  
お花・本・CDなど

6月29日(水) インテリアの日  
家具・インテリア用品など

時間: 6月1日のみ 10:00-18:00  
会場: Rue des Pierres Square 22, 1170 Watermaal-Bossford  
バス 41 番 Dries 歩行徒歩 1分  
車 徒歩 17分 および 95 番 Ryem 歩行徒歩 10分  
土曜日より 25分 Standard Care 歩行徒歩 10分  
路上駐車場の片側は1階-2階まで駐車禁止!

お問い合わせ先:  
Japanese Christ's Disciples 川上 寧 (やすし)  
Phone: 0479 67 03 18 (F) 0479 67 02 64 (E)  
E-mail: yasushi.kawakami@vianova.be | masaki.kawakami@vianova.be (2022)

## 盛永先生の思い出

森 功

スタバンガー日本語聖書集会



先生の計  
報を頂き、  
驚きと共に  
ヨーロッパ  
のキリスト  
教界に於い  
て、一時代  
が終わった  
ことを思わ

されました。

振り返ってみれば、先生と初めてお会いしたのは、90年夏に行われたパリ教会主催のヨーロッパ・キリスト者の集いだったように記憶しています。その当時は、まだ先生も黒髪ふさふさ気味で（失礼）、或る日本の映画監督に似ておられるお方だと、心ひそかに思っておりました。

それから毎年行われる夏の集いに参加する度に、メッセージを聴かせて頂きました。先生のメッセージを通し、大いに感動させられ心奮わされた事でした。またメッセージには大変特徴がありまして、最後の10分頃からすこぶる熱と力が入って盛り上がり、声も一層大きくなりそして結論に至るのです。それがTVドラマの水戸黄門の進み方と似ていまして、ドラマ終了前に助さん格さんが「控えおろう。者どもこの紋所が目に入らんか。こちらにおわすのは、、、」と必ず決め台詞があって終わる訳ですが、その時間配分がとても似ているのです。



2002年の春、盛永先生を迎えて

実はこれを聞くのが楽しみで楽しみで、「さー、そろそろ来るぞ」と、その時が来るのを心待ちにしていたものです。そしてあまりに聞き惚れてしまい、私は最後の少しの部分あたりを真似るのが趣味のようになったものです。

## 盛永進先生



また会う日まで

話を戻します。97年にノルウェーのオスロ集会と私達ブリーネ祈りの家集会（旧称）が共同で、第14回ヨーロッパ・キリスト者の集いを担当する事となった折には、その準備の為に前年より、遠路ロンドンから開催地のオスロまで来て下さり、アドバイス等ご指導を頂きました。そのオスロでの集いの後、98年から先生がロンドンの教会を辞任される頃まで、ほぼ毎年のように年に一度は私共の集会を覚え、説教のご奉仕にいらして下さいました。

その都度、私達は良き親睦の時間が与えられ、メッセージを通して宣教と信仰の励ましを頂いた事でした。或る時は空港にお迎えに行った帰りのドライブで、交通事故に遭遇してしまい、奥様が数日間入院するようになった事もありました。また或る時は、旅の前日に先生宅で水漏れが

あったり、発熱で体調が悪かったり等、あれこれとハプニングもありました。しかしそのような中であっても、主に守られて集会が出来、先生も支えられ心良くご奉仕して下さいました。



2010年の春、ブレーネにて

また先生は、私が気ままに好きで作った「月の法善寺横丁」という昭和歌謡曲の牧師バージョン替え歌を、大変気に入って下さり、来られる度にリクエストされたものでした。が、私の家内はこの替え歌を私人前で披露するのをとても嫌がり、あまりお聞かせしませんでした。

今となっては、もっとお聞かせすれば良かったかと、少々後悔しています。今は父なる神のもとで、天国の素晴らしさを味わっておられる事でしょう。神様は先生をロンドンの教会に導かれ、のみならずヨーロッパの多くの日本語教会や集会、また北欧の小さき私共の集会にも遣わして下さいました。その恵みと備えを下された神様に、またご奉仕下さった先生に、心から感謝申し上げます。

最後になりましたが、長年に亘り先生の同労者であられた奥様にも感謝申し上げますと共に、神様からの慰めをお祈りする次第です。



## 盛永先生を偲んで

馬場信裕 &amp; 晶子

ロンドンJCF

「私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。」（第2テモテ4章7節）

6月11日早朝友人からの一報で盛永先生の召天を知りました。

最後に先生にお会いしたのは、神栖のご自宅でした。JCFの支援会の兄弟と一緒に3人で神栖のお宅に先生を訪ねたのは秋も深まった2020年11月のことでした。東京から到着するバスターミナルに私たちを笑顔で出迎えてくださいました。ホテルにチェックインした後、車で通い慣れたとんかつ屋さんに入れていってください、御馳走してくださいました。

80代半ばを過ぎておられましたが、まだまだ元気なあの頃と変わらない盛永先生でした。翌日は午前中からご自宅を訪問

して、夕方まで共に語り、相談し、共に祈りました。先生はJCFの将来を誰よりも心配されていましたが、私たち夫婦がJCFを管理していることを喜び、安心だとおっしゃってください、コロナ禍であっても協力牧師を得て、礼拝や集会が守られていることをとても喜んでくれました。翌年春桜の季節に再訪問することを約束して別れましたが、コロナ感染拡大によってそれ以来帰国はできない状態となりました。

2020年11月、盛永先生のご最良のとんかつ屋で

私たちと盛永先生との出会いは1974年先生がロンドンで宣教を始められたころにさかのぼります。未信者同士であった私たち夫婦がロンドンで出会い、一緒に日本語礼拝に参加するようになり、洗礼、婚約、結婚へと導かれたのは盛永先生の後押しがあったからです。

## 盛永進先生



また会う日まで

当時40歳ぐらいだったでしょうか、青年たちに混ざってキャンプに行ったり、地元の教会のジャパNDERで、主人を相手に剣道を披露したのは懐かしい、楽しい思い出です。それまで剣道をしたことのない先生は主人の言いなりで、受け身に回り、主人の一撃で脳震盪を起こしそうだったといつまでも懐かしそうに話をされていました。まだまだ誕生したばかりの教会でしたが、私たち青年はその先生の経済的な苦労などはつゆ知らず、週末になっては先生ご夫妻のフラットを訪ねて聖書の学び後先生特製のラー油入りおじやの食事を共にし、最終バスまで語りあったものです。

当時は留学生は少なく、ほとんどがオーペアの女性たち、語学学校で学ぶ若者たちでした。みんな貧しい中でも肩を寄せ合い、助け合い、助けられ、異国で生きる勇気と希望が与えられる

場所でした。

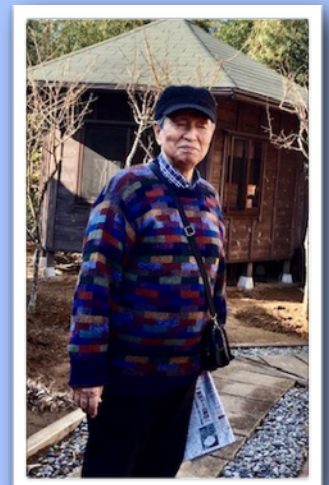


神栖の自宅前でマスクで記念撮影

ロンドンJCFはその後先生ご夫妻の働きによって成長し、多くの方々が救われ、帰国された方々によって日本での支援会も設立されました。私たちは帰国組として先生を支える側でしたが、神様のご摂理の中帰国後20年目に再びロンドンに戻る機会が与えられ、以来JCFで働きに加えていただいています。

晩年には先生ご夫妻がJCFを愛するがゆえにいろいろと行き違いがありましたが、すべて先生の召天と共に許しあい、イエス様のところに持ち帰っていただいたことと思います。

盛永先生がおられたからこそ今のJCFがあることを忘れず、これからも先生のご意思＝神のご意思を受け継ぎ、次世代の方へバトンをしっかりと受け渡していきたいという思いを新たにしています。





## 愛に溢れる盛永進先生

富永重厚

パリ・プロテスタント日本語キリスト教会

パリ教会の42年の歩みの中で牧師のいない所謂「無牧」の時代が通算で30年程ありました。その間神さまはこうしたパリ教会を憐れんで下さり、欧州各地のそして日本や他の国でご奉仕されている実に多くの牧師・伝道師の先生方を送り続けて下さいました。その中で盛永進先生には最もお世話になりました。

1987年4月、当時ロンドンJCFの牧師であられた盛永進先生をお招きして特別伝道礼拝を行って以来ほとんど毎年のように、無牧のパリ教会にお越し頂き伝道礼拝を持つことができたのです。そして1998年2月にはパリ教会顧問牧師までお引き受け下さいました。



2018年1月牧師館での祈禱会の後で

パリは日本人にとって実に住み難い所です。他の人には言えないさまざま問題や苦しみを抱えていました。驚くべきことに盛永先生との面談を終えられた姉妹方はどんなに短い時間であっても必ず、安らぎを得て顔を輝かせておられました。

ある時私は盛永先生にその秘訣は何かを尋ねたことがあります。盛永先生は少し考えられて「それは「やまびこ」になることです」と言われました。「やまびこ」？何よりもまず心底から相手の心になってあげることです。その愛です。盛永先生は何時も苦しんでいる方、泣いている方、弱り果てている方への愛に溢れていました。先生はいつもイエスさまと共におられたからです。そして人が「生きていく」ことの大変さをよく知っておられました。

その先生の愛が今は天におられる半田薫次郎兄を主に導かれました。それは盛永先生が2017年の元旦礼拝のご奉仕のためパリ教会に来て下さった時です。半田さんが初めてパリ教会に来られたのは2015年5月で84歳の時で動機は「人恋しくなったから」でした。もともと作家志望で人間が大好きで、大変な読書家で特に坂口安吾を愛読していました。パリが大好きで孤独を好み、やや頑固な性格でずっとパリで一人暮らしをして来られました。

## 盛永進先生



また会う日まで

半田さんは礼拝や家庭集会には必ず出席していましたが、なかなか聖書が理解できず、私たちの祈りにもかかわらず救いにまで至る道はとても遠いように思われました。私はこの時を逃してはならないと強く思われ盛永先生との個別の学びをお願いしました。先生は牧師館で数日の短い学びをして下さり1月6日の最後の学びの時は私も同席させていただきました。

盛永先生は半田さんの横に寄り添うように座り、紙に十字架を書きその真ん中に○をして「半田さん、この○は宝物を取り出す鍵穴です。鍵は”私のために十字架で死んでくださったイエスさまを信じ従います。”です。半田さんこの鍵で宝物をご自分のものになりたいですか？」

と言われました。何と驚いたことに

半田さんは「はい、信じてイエスさまに従います」と答えられました。そして盛永先生は短いけれど実に愛に溢れたお祈りをされました。

86歳の「新しい命」の誕生でした。そして1月8日の聖日礼拝で盛永先生司式で半田薫次郎さんの洗礼式が行われました。ここでも半田さんは杖をつきびっくりする程大きな声で「私はイエスさまを信じ従って行きます」と言われました。この洗礼式は参加していた全員に大きな感動を与えてくれました。半田さんは理屈ではなく盛永先生の愛の心に触れたのだと思います。

先生は決して器用な方ではありませんでした。ご自分の愛を押しつけることもありませんでした。従って誤解されることもありました。しかし誰でも先生の愛に触れる時、深い慰めを頂きました。盛永先生はいつもイエスさまの愛に生きておられたからです。

今頃、先生と半田兄は天国であの時のことを語り合っておられると思うと思わず笑みがこぼれます。盛永先生、長い間本当にパリ教会を愛して育てて下さり有難うございました。盛永先生が最後まで愛しぬかれた正子夫人の上に主の深い慰めがありますように。先生との天国での再会を楽しみにしています。



2015年のブラハ大会が最後のキリスト者の集いの参加

## Yad Vashem バーチャルツアーに 参加して



### ホロコーストを通して考える 佐々木千鶴 シュトゥットガルト日本語教会

石堂ゆみさんガイドのイスラエル・バーチャルツアーに参加させていただきどうもありがとうございました。いつしかイスラエルの地に足を踏み入れてみたいと思うようになっていましたので、本日、ホロコーストの歴史の背景を垣間見る事が出来ました事をとても嬉しく思いました。

このツアーを企画、準備された原さん、そしてガイドを務めて下さった石堂さんのご尽力に心より感謝いたします。ガイドの後の分かち合いでは、ホロコーストを通してユダヤ人の特別な人間性と神さまとの深い繋がりをじっくりと考えさせられたような気がいたしました。

最後の石堂さんのお話からも学ぶ事がとても多く、異国人クリスチャンにとって今の恵まれた時代に生きる私たちが今日をどう生きるか？あらためて問われているようにも感じました。この機会を与えて下さった主の恵みを心から感謝いたします。

### これもいつかは終わる 遠藤有紀 Stiftskirche Stuttgart

2月20日のヤドバシエムバーチャルツアーの直ぐ後にロシアのウクライナへの攻撃が始まりました。それ以来、メディアは「戦争」一色で、今は平和な私の住むドイツの街にも言いようの無い不安が漂っています。

攻撃が本格化する直前に主が憲二さんを通してこのツアーに私を招待して下さい、石堂さんのご説明を通してメッセージを与えて下さった事が今の状況下での心の支えとなっています。

「これもいつかは終わる」

「You have to do what you have to do」

「時が良くても悪くても、神様とイスラエル人は切り離せない父子の様な関係」等の言葉が繰り返し胸に浮かびます。

聖書の中のイスラエルと神様の関係が今の世界にも繋がりが続いて生きている事、私の人生にも深く関わっている事、聖書とイスラエルを見れば世界が見える事がこのツアーで更に現実味を帯びて自分自身に迫って来ました。神様がこの機会をお与え下さって、小心者の私に心の準備をして下さった事に感謝します。

### バーチャルツアーの開催に至るまで

1月末、マイヤー牧師が理事長をされておられるZedakah団体にてAuschwitzの解放77年の記念大会が開催され、スイスの教会の兄弟姉妹もライブで参加する機会が与えられました。

これをきっかけに、ホロコーストの学びを深める機運が兄弟姉妹の間で高まりました。

一方、私たちの教会主催で実施したイスラエル旅行（第3回 2019年）の現地ガイドをして下さった石堂ゆみさんが、今年の初め時を同じくして、ヤドバシエムバーチャルツアーの日本語ガイドを始めておられること知らされました。早速、石堂さんをお願いしたところ、快く私たちのために準備してくださり、実施の運びとなりました。

石堂ゆみさんは、クリスチャンジャーナリスト、イスラエル政府公認ガイド、日本人初のヤドバシエム公式日本語ガイド認定者として活動されています。今年9月5日-13日には既にスイスJEGでは、第4回のイスラエル旅行（団長 マイヤー牧師）を予定しています。

イスラエルを知ること、ユダヤ人を知ること、幹である神の民ユダヤ人に接ぎ木された存在である異邦人クリスチャン：私たち自身を知ることに通じます。そこに神様からの壮大なご計画による、はかり知れない愛を受けていることも示されます。素晴らしい機会を与えて下さった神様と石堂さんに感謝します。

原憲二

## Yad Vashem バーチャルツアーに 参加して



### 自分の内にも同じ罪が

三浦栄樹

岡山県玉野市・玉野聖約キリスト教会

今回は、ドイツの原姉姉のご招待でバーチャルツアーに参加させていただきました。バーチャルではありますが、ホロコーストの史料を視聴させていただき、とても考えさせられるものがありました。いくつかの点を挙げさせていただきます。

●虐殺されたユダヤ人の人数です。反ユダヤ主義の方々によるものと思いますが、ユダヤ人が虐殺された人数は一般に言われている600万人という数字ではなく、もっと少ない人数だとの言説を聞いたことがあります。しかし改めてですが、600万人というのは事実であることを思われました。

●人間の底知れない罪の醜さを見る思いでした。自分の内にも同じ罪があることを覚えて戦慄する思いでした。

●理性的で論理的と言われていたドイツ人が、ヒトラーの台頭を民主主義的に許し歓迎していったことを知る時に、人間のやることの限界と愚かさをおぼやかしませんでした。



●ユダヤ人の痛み、悲しみ、苦悩、絶望を見る時に、ユダヤ人に限らず、私たちクリスチャンにとっても、「この世は彼らにふさわしい所ではありませんでした」（ヘブル11：38）という聖書のことばが本当であることを思いました。イエス・キリストによって、「私たちの国籍は天にあります」（ピリピ3：20）と告白できることの幸いを改めて思いました。

以上、いろいろな思いの中で映像を見せていただき、解説を聞かせていただきました。招待してくださって本当にありがとうございました。感謝いたします。

### 人間とは何か、人生とは何か

三浦みどり

岡山県玉野市・玉野聖約キリスト教会

今回は、とても貴重なセミナーにお招きくださり、本当にありがとうございました。ホロコースト記念館にはいつかぜひ行きたいと思っていたので、イスラエルの記念館に、しかも詳しいお話を聞きながら、ズーム視聴の形で行くことができ、本当に思いがけない感謝な時でした。

実は、小学6年生の時に、アウシュビッツ展が大阪で開催され、父に連れられて行った事があります。原爆に関しては色々読んで知っていたのですが、ホロコーストについてはほとんど知らず、そこに展示された数々の写真や、実際に用いられたベッドや服その他を見て、当時物凄い衝撃を受けました。

しばらく収容所で自分が選別されるなどの夢ばかり見ていたことを思い出します。それ以来、人間とは何なのだろうか、生きるとはどういうことなのだろうかという大きな疑問符が私の中で広がっていったような気がします。それが20代での主との出会いに繋がって行った事は本当に感謝でした。

今回は改めて、ホロコーストの時系列的、空間的な非常な広範さを教えていただき、様々なことをまた考えさせていただいています。人間とは何か、人生とは何か、私たちに何ができるのか。深いテーマをありがとうございました。

聖日の夜だったので、疲れの為か何度か中座してしまい申し訳ありませんでした。講師の姉妹にもよろしくお伝えくださいませ。



ツアーガイド：石堂ゆみ姉



Yad Vashem  
バーチャルツアーに  
参加して

## ヤドバシエム・バーチャルツアーで考えたこと

原 憲二

スイス日本語福音キリスト教会

本当にインパクトの強いツアーでした。イスラエル旅行の後にも感じた余韻を感じています。そして、ユダヤ人について、また私たちキリスト者の位置づけについて改めて考えさせられました。

ユダヤ人のこれまでの歴史を見ると、やはり彼らは聖書を通して神が語る神の民であることを思われます。いくつもの熾烈な迫害の歴史を通されたこと、また、現在、諸国から約束の地に再び集められて建国までに至った現実を見ると、神がモーセを通して彼らに与えたおきてに定めた

「祝福」と「のろい」（申命記11.26）通りに、神はその義と、神の民であるが故に、大いなる憐れみを彼らに与えておられる（ローマ11.28）ことを感じます。また、神様は地上の、一人でも多くの異邦人を救うために、ユダヤ人に召命を与えられておられる。

「それでは尋ねますが、彼らがつまずいたのは倒れるためでしょうか。決してそんなことはありません。かえって、彼らの背きによって、救いが異邦人に及び、イスラエルにねたみを起こさせました。

彼らの背きが世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らがみな救われることは、どんなにすばらしいものをもたらすことでしょう。」（ローマ 11. 11～12）

来る患難時代では、大リバイバルの担い手になるのが14万4千人のユダヤ人であることも聖書が預言しています（ヨハネの黙示録14.1）。

そして、私たちキリスト者は、接ぎ木された存在であるということ。

「枝の中のいくつかが折られ、野生のオリーブであるあなたがその枝の間に接ぎ木され、そのオリーブの根から豊かな養分をともに受けているのなら、あなたはその枝に対して誇ってはいけません。たとえ誇るとしても、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです。」（ローマ 11. 17～18）

ユダヤ人に対して（置換神学のように）決して傲慢になってはいけないと思うし、むしろ、私たちの救いのために壮絶な召命を受けてきている彼らに感謝しなければならないのではないだろうかと思います。

そして今、私たちの前にも祝福とのろいが神様から与えられていることを覚え、選ぶのは祝福の方でありたいと思います。

「わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」（創世記12: 3）

神さまの壮大な愛のご計画に感謝します。

スイス日本語福音キリスト教会主催

## 第4回 イスラエル聖地旅行へのご案内

2022年9月5日-13日

定員25名（参加者19名までの場合は、2289Euro ツイン1人あたり、2923Euro シングル）

申し込みは7月迄に次のリンクから→<https://forms.gle/oPuEpAgfnkjW5d8m8>

詳細は右をクリックしてHPにてごらんください。→[イスラエル旅行](#)



団長：

マイヤー・マルチン牧師